

アンケート結果等から見た検討課題について

検討課題1 保育サービスの利用について（就学前）

保育所、託児所、幼稚園等に通っている児童は、全体の3割程度であり、他は在宅での保育となっている。今後、保育所、幼稚園に望むこととしては、「保育料などの引下げ」が最も多くなっている。また、保育所を利用している人では「預かり保育・延長保育の充実」、保育所、幼稚園共に利用していない人では「幼稚園、保育所の情報提供」と回答している人が多くなっている。

保育サービスの利用意向としては、平日では7割程度となっている。利用したい理由としては、就労関係を理由としている人が多く、また、働いていない人では「子どもに集団生活を経験させたいので」と答えている人が多くなっている。

病後時・一時預かり等の意向では、施設型、派遣型ともに利用意向が高くなっている。泊りがけの預かりに関しては、利用意向は3割程度である。

今後の課題としては、特に、就業している方への保育所を中心としたサービスを充実させていくことはもちろんのこと、多くの在宅での子育て従事者への支援をどのような形で行うのかを検討していく必要がある。

検討課題2 子育てを支援していく地域環境について（就学前）

子育てに対する考え方では、就学前、小学生において、「出産後1年か2年は家庭で子育てをし、その後は預けて仕事をしたい」との回答が多い。その後、「理想通りに、仕事をしている」と答えた人は中学生において3割程度であり、就学前、小学生では少ない状況にある。また、就学前においては「子どもがある程度大きくなるまでは家庭で子育てをしたい」という回答が7割あり、在宅への意識の高さが伺える。

子育てに関しての悩み等では、育児方法や学校教育への不安が多いとともに、就学前において、「趣味や付き合いなど自分の時間が少ない」と回答した人が、小学生、中学生よりもはるかに多かったことが特徴的である。また、相談したり、支援して欲しい人では、「祖父母」という回答が最も多かった。

地域環境としての期待では、保育サービスの充実や、子どもの遊び・体験の場の充実とともに、「子育てに関する職場の理解が進むこと」という回答が多かったことも特徴的である。

今後の課題としては、在宅で安心して子育てができる環境づくりについて検討していくことが必要である。また、子育て中の親同士が交流できる場を創出し、子育て中でも趣味や付き合いの場が広がる環境づくりを検討していく必要もある。

さらに、女性はもちろんのこと男性の育休も促進も含めて、各事業所が子育てに関する理解が進むよう、啓発活動を行っていく必要がある。

検討課題3 子育て支援機能について(就学前)

認知度に関しては、「両親教室」「こども相談センター」「ぴよぴよ広場」「こども発達支援センター」「まちかどサポートセンター運営支援事業」について低くなっている。

利用に関しては、「子育てハンドブック」が最も多く、「地域子育て支援センター」「乳幼児のための児童館の開放」が3割程度となっている。

利用意向に関しては、「子育てハンドブック」「乳幼児のための児童館の開放」が6割を超え、「地域子育て支援センター」「乳幼児健康相談」が4割を超えている。

今後の課題としては、まず、各サービスの認知度を高くしていくことが必要である。また、相談機能、各種情報の提供を充実させていくことも必要である。さらに、「地域子育て支援センター」の機能を充実させ、様々な子育て支援の拠点としての機能(子育てサロン、子育てサークルへの紹介)を充実させていく必要がある。

検討課題4 小学生児童へのサービスについて(小学生)

放課後児童会の利用状況は1割程度である。また、利用意向は4割程度である。また、夜間にかけての預かりサービスのニーズは2割程度である。いずれも就業に関することが利用したい理由となっている。

泊りがけの預かりに関しては、利用意向は3割程度である。

子育て支援機能については、認知度に関しては、「子育て広場」「ぴよぴよ広場」「子育てガイドブック」「こども発達支援センター」について低くなっている。利用状況では、「児童館・放課後児童会」が4割程度である。利用意向では、「子育てガイドブック」「児童館・放課後児童会」が4割程度である。

今後の課題としては、乳児期を終えて、再就職をしようとする母親等を支援していくサービスとして、放課後児童会や新しいサービス等の内容を検討していく必要がある。

検討課題5 小学生の生活実態と教育的課題について(小学生)

両親・友達・近所とのふれあいの度合いでは、合わせて3割程度人が、「やや足りない」「全く足りない」と回答している。

教育事業における今後の利用意向では、「市民図書館の行事」「自然体験教室」「親子体験教室」の利用意向が高くなっている。

放課後を過ごす場所等については、「運動する場がない・少ない」「教科以外のことを学ぶ場がない・少ない」「奉仕活動や体験活動をする場がない・少ない」「自然の中で過ごす場がない・少ない」という回答が多くなっている。

今後の課題としては、両親や近所の人たちとのふれあいがどのようにしたら促進されるのかについて検討していく必要がある。関連して、利用意向の高い、「自然体験教室」「親子体験教室」への参加を促進するとともに、内容を充実させていく必要がある。

以上の検討課題を整理すると、本計画における重点課題が浮かび上がってくる。



重点課題1	在宅でも安心して子育てができる地域における子育て支援
重点課題2	子育てと仕事が両立できる子育て支援
重点課題3	教育内容の充実と環境整備
重点課題4	子どもの健やかな成長支援
重点課題5	児童の権利を尊重するまちづくり

重点課題（基本目標）と考えられる計画の体系

重点課題1 在宅でも安心して子育てができる地域における子育て支援

検討施策内容

- ・ 子育てに関する相談支援体制の充実
- ・ 子育て支援サービスの充実
- ・ 情報提供体制の推進
- ・ 生活環境の整備
- ・ 子育て支援のネットワークづくりと社会参加
- ・ ひとり親家庭の自立支援
- ・ 子どもを取り巻く犯罪・交通事故等への対策

重点課題2 子育てと仕事が両立できる子育て支援

検討施策内容

- ・ 保育サービスの充実
- ・ 放課後児童会の充実
- ・ 親子のふれあいの場の創出
- ・ 男女共同による子育ての推進
- ・ 事業所等へのバリアフリーへの啓発

重点課題3 教育内容の充実と環境整備

検討施策内容

- ・ 地域サポーターの養成配置
- ・ 子どもの社会活動支援
- ・ 中高生等の乳幼児等とのふれあい体験の充実
- ・ 幼児教育振興プログラムの策定
- ・ 家庭教育の支援・推進

重点課題4 子どもの健やかな成長支援

検討施策内容

- ・ 母子の健康づくり支援
- ・ 父親の育児に関する知識等の支援・指導の充実
- ・ 食育の推進
- ・ 小児医療の充実
- ・ 性に関する正しい意識の充実

重点課題5 子どもの人権擁護の推進

検討施策内容

- ・ 子ども参加型の街づくりの推進
- ・ いじめ不登校などへの対応
- ・ 児童等虐待防止ネットワークの構築
- ・ 子どもの権利条約の啓発・普及